

館蔵品展「新収蔵品あれこれ」出品目録

〔会期:2019年11月2日(土)～2020年1月13日(月・祝)〕

当館では長く後世に高岡の歴史文化を伝えるために、日頃、郷土の歴史・民俗・伝統産業などに関わるさまざまな資料を収集しています。その多くは市民の皆さまからのご寄贈によるものです。資料点数は平成30年度末現在で2,922件24,893点になりました。収集したそれらの資料は適切に保存・管理、調査・整理しています。そして、その成果を展示や教育普及（講演・講座など）、情報公開などに幅広く活用しています。

本展では近年新たに収蔵された博物館資料を展示・紹介します。開催にあたり貴重な資料をご寄贈賜りました、関係各位に厚く感謝申し上げます。

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横, cm)	備考	所蔵 (寄贈者)
1	前田長種判物（二上渡守かた宛）	慶長6年(1601)9月3日	1	28.9×44.9	小矢部川を現在の高岡市守護町と木町を結ぶ二上渡し守の船頭らに、渡船を新造し今年を限り通行人より銭の徴収を許可したもの。前田長種(1550～1631)は、守山城代として利常を養育しながら領内の治政を統括した	当館 (個人)
2	越中中郡新屋関村検地打渡状（大西金右衛門尉等6人→）	慶長15年(1610)10月20日付	1	28.0×41.9	高岡築城・開町の翌年に行われた検地の結果を通達したもの。射水郡下関村(現高岡市下関等)当時「中郡新屋関村」と呼ばれていたことや、石高は161石余あるが、この内、「高岳御屋敷奉行衆」の武家屋敷分66石余が引かれていることなどがわかる。飯田家文書のうち	当館 (飯田弘一氏)
3	下関村内高岡明屋敷方免相定書（加賀藩主・前田利光→下関村又左衛門等）	元和9年(1623)2月14日付	1	39.7×56.0	高岡廢城(1615年)前後から、金沢へ転居した武家屋敷の跡地(明屋敷)は新田開墾(新開)された。下関村領では5度(1613・16・23・34・47年)新開高が計上され、元和2年(1616)の124石余が最大の新開である。本書はその内、元和9年段階の免相(年貢率)などの通達。飯田家文書のうち	当館 (飯田弘一氏)
4	大仏屋敷請状(坂下町極楽寺良寛等3名→下関村肝煎又右衛門等3名)	延享3年(1746)2月	1	25.6×37.0	高岡大仏が造立された翌年に、願主の坂下町極楽寺の良観と坂下町の町役人から地権者の下関村村役人に出された土地借用証文。飯田家文書のうち	当館 (飯田弘一氏)
5	伏木浦御蔵米積舟宿に付御糺願上書(控/鶴屋善右衛門→西海屋万右衛門等2名)	安永9年(1780)	1	23.9×30.9	安永8年、伏木湊で大坂廻米(年貢米を大坂へ廻送すること)の権利をめぐり、伏木にある廻船問屋の西海屋(堀)万右衛門・網屋(岩坂)助左衛門と鶴屋(堀田)善右衛門が争った。本史料はその翌年に鶴屋が判決を催促した願書の控え。堀田家文書のうち	当館 (堀田一善氏)
6	吉久御蔵出船御米等積出堀川并土居川除百間五寸之間絵図	文化2年(1805)3月	1	46.7×69.7	原図は石黒信由作(国指定重要文化財)。縮尺は1/1260。江戸時代、現高岡市吉久に置かれていた加賀藩の「御蔵屋敷」(年貢米蔵)周辺の絵図。吉久御蔵には、射水・砺波郡の村々から舟で庄川を下って大量の年貢米が納められた。荒木家文書のうち	当館
7	二上組二塚村変地所勢子年限取極場所見取絵図	嘉永2年(1849)6月	1	63.0×132.0	現高岡市二塚の絵図。水害によって不毛となった土地の復旧を奨励するための補助米を支給する取り決めがなされた場所が記される。5年・10年・15年の開詰(復旧予定)が色分けされている。青木家文書のうち	当館
8	「砺波郡御巡見御道筋手絵図」	安政3年(1856)	1	11.1×352.1	高岡より南へ戸出、杉木新町(砺波市)、福野町、井波、城端、福光を経て加賀国河北郡境に至る街道を描いた絵図	当館
9	真宗大谷派十四世法主・琢如消息(写/越中国院家中等)	江戸後期	1	18.0×205.0	真宗大谷派(東本願寺)十四世法主・琢如が越中国の院家中(真宗寺院)、一家衆(本願寺宗主の一族)、惣坊主中、惣門徒中宛の消息の写し。琢如(1625～71)は江戸前期の真宗大谷派の僧	当館

10	越中北前船破船荷物分散帳等関係史料	江戸後期	5	—	江戸後期、各地で北前船が難破した際の状況、その後の処理記録等について書き留めた書類	当館
11	高岡市伏木旧各町字限絵図	明治初期	7	—	現高岡市伏木地区における旧町ごとの字限絵図各種。八坂家文書のうち	当館 (今井昭次氏)
12	射水郡旧矢田新村地内、伏木町大字古府村江組替地々引絵図	明治24年(1891)9月	2	—	矢田新村(現高岡市伏木矢田新村)から古府村(現高岡市伏木古府)へ土地の組替えを行うために作成された絵図。八坂家文書のうち	当館 (今井昭次氏)
13	「越中国射水郡高岡地図」	明治前期	1	54.8×72.2	明治前期の高岡町が描かれた絵図。17の色分けされた各町村の領地のほか、官道、支道、町村境なども記される	当館
14	国泰寺山門指図(二十分の一)	明治期	1	101.0×132.5	高岡市太田の西田地区にある臨済宗国泰寺派大本山・国泰寺山門の設計図(下図)	当館
15	太政官布告(越中国射水郡は七尾県から新川県へ)	明治5年(1872)9月	1	21.9×29.7	高岡を含む越中国射水郡が、七尾県(現石川県能登地域)から新川県(現富山県)編入を命ぜられたもの	当館
16	質屋営業願書(大野与三治郎・下関村戸長大野太作→石川県権令・桐山純孝)	明治9年(1876)10月18日	1	23.9×35.5	越中国第16大区小3区射水郡下関村(現高岡市下関等)の大野与三治郎が以前より営業していた質屋屋について、今般の通達によって改めて願い出ているもの	当館
17	肥物卸小売営業承認書(高岡市役所→十二野長次郎)	明治25年(1892)	1	17.7×13.6	高岡市役所発行の商売営業許可証。申請者は高岡上川原町の十二野長次郎(米仲買と兼業)	当館
18	高岡米商会所定期米価格高低表	明治25年(1892)、同32年(1899)	2	—	高岡米商会所(のち米穀取引所と改称)の定期米(先物取引)の価格高低表。高岡米商会所仲買・十二野長次郎、高岡新報社発行	当館
19	電信略語表	明治後期	2	—	電信略語とは、電信(電報)を発信する際に必要な情報を、カタカナなどを用いて記号化したもの。米取引などに必要な情報(天候・生育状況等)とともに「高岡」の地名もみられる	当館
20	坪井信良書簡(玉虫散士宛)	辛丑(明治34年)12月31日	1	17.8×38.4	高岡最古の町医者佐渡家出身で、福井藩を経て幕府奥医師となった幕末の蘭方医・坪井信良(1823~1904)晩年自筆の書簡	当館 (太田久夫氏)
21	犬養毅書簡(島田孝之宛)	年月未詳26日	1	17.0×49.0	明治~昭和期にかけて政党政治を推し進めた政治家で、首相の際に五・一五事件で暗殺された犬養毅(1855~1932)が、現・高岡市中田出身の政治家・島田孝之(1850~1907)に宛てた書簡	当館 (東修氏)
22	田口卯吉書簡(島田孝之宛)	年未詳(明治期)31日	1	16.5×56.3	明治期の経済学者・政治家の田口卯吉(1855~1905)が島田孝之に宛てた書簡	当館 (東修氏)
23	筏井竹の門書簡(安嶋太次郎宛)	〔消印〕大正7・8年(1918・1919)頃	2	—	明治から大正にかけて高岡の俳壇で活躍した筏井竹の門自筆の葉書2通。2通共に「大牧(温泉)」の文字が確認できる。1通目は風邪をひいて寝床にいる自分自身を描いたものか。2通目は草の茂みで木こりが斧を振りかざす瞬間を描いたもの	当館
24	筏井竹の門宛書簡(三輪未央・塩屋鶴平・早見光太郎より)	〔消印〕明治40年代~大正13年(1924)	3	—	筏井竹の門宛の書簡3通。1通目の差出は俳人・三輪未央。句集『猿蓑』(1691年刊)の収録句を裏面に記す。2通目の差出は俳人・塩屋鶴平(1877~1940)。自身の病氣療養のため入院中で、見舞状の礼などを述べる。3通目の差出は福井出身の県会議員等を務めた早見光太郎(1869~不詳)。早見と竹の門は、大正3年(1914)5月2日に福井県の春嵐亭で句会を開いている	当館

25	筏井竹の門書簡（発田喜太郎宛）	年未詳〔大正期〕10月15日	1	23.3×30.7	筏井竹の門自筆の書簡。差出は木舟町の発田喜太郎宛で、竹の門が発田家の猿滑の枝を1、2枝所望したいとの内容	当館 （島田慶博氏）
26	『伏木港概要』	昭和7年(1932)	1	19.0×10.5	伏木港の歴史、港の水深・水位・潮位、気象情報をはじめ、伏木の名所・旧跡などの情報も記される	当館
27	高岡劇場スクラップブック	昭和12～30年(1937～55)	8	—	高岡の映画黄金時代(昭和20年～30年代前半頃)をリードした、高岡劇場に関する新聞記事のスクラップブック。記事のほかロゴマークの原本と思われるものや、各種優待券、社長(桜井宗一郎)の死亡記事などもある	当館
28	伏木関係絵葉書	明治40年(1907)～昭和期	15	—	現高岡市伏木の港や市街、名所、風景などを写した写真絵葉書	当館
29	高岡名所絵葉書(複写)	明治40年(1907)～昭和期	6	—	高岡古城公園、瑞龍寺、関野神社等の市内名所や旧跡、風景を写した写真絵葉書	当館
30	金預手形(高岡 鍋屋仁左衛門)	江戸期	1	16.2×4.2	越中高岡の鍋屋仁右衛門が、金2歩の預かりを証明する手形	当館
31	判鑑(高岡木町鷺塚屋大橋善右衛門、同木舟町井波屋左七郎等5名)	江戸期	5	—	判鑑とは、印影の真偽鑑定用に役所・関所・または取引先などにあらかじめ渡しておく見本(現在の印鑑証明)	当館
32	加賀藩藩札(銭一貫文)	明治元年(1868)5月～6月6日	1	19.3×5.9	加賀藩が独自に領内に発行した紙幣。銭の預かり手形なので「銭札」という。のち同6年(1873)6月10日をもって銭札の通用は禁止された	当館
33	「高岡発汽車時間表」	明治39年(1906)4月改正	1	35.9×25.6	明治39年(1906)4月改正時の高岡発汽車時間表。金沢行き6本、富山行き6本、城端行き7本、伏木行き11本の各方面に向かう高岡駅発の時刻表が記載	当館 (松原 一氏)
34	高岡市内商店引札各種	明治～昭和期	6	—	引札は、江戸から昭和初期頃まで刷られた印刷物。客を「引く」という縁起を担いで、商店の得意先や街頭で配られた(関東は「引札」、関西は「散」と呼んだ)	当館
35	映画ポスター「英傑秀吉」	昭和4年(1929)	1	—	高岡市小馬出町にあった日活直営の映画館「日の出館」で公開された映画「英傑秀吉」(1929年3月31日公開)のポスター。日の出館は、同36年まで存続した	当館 (神初豊一氏)
36	「高岡-戸出-出町乗合自動車時刻表」	昭和9年(1934)12月改正	1	28.0×39.5	「高岡-戸出-出町(現砺波市中心部)」間を走る乗合自動車の時刻表。乗合自動車とは、一定の運賃で不特定の旅客を乗せ、定まった路線を運行する大型の自動車のことで、現在のバスにあたるもの	当館
37	乳母車	〔製造年〕昭和29年(1954)	1	幅90.0×奥行64.0×高さ88.0	乳幼児を乗せる専用の手押し車。長男の誕生に際し、その祝いで寄贈者の実家から贈られたもの。乳母車の製造は、当時高岡片原横町にあった「あきもと乳母車店」	当館 (藤井喜代乃氏)
38	堀川敬周画/殿岡神通賛《秋景山水図》	安政4～5年(1857～58)頃	1	106.1×42.7	高岡初の町絵師といわれる堀川敬周(1789頃～1858)最晩年の作品。左上の余白には富山出身の国学・漢学者の殿岡神通(青木北海/1782/83～1865)による賛が書かれる	当館
39	堀川敬周地面売渡証文	嘉永7年(1854)4月14日	1	24.0×18.8	敬周が亡くなる4年前の嘉永7年に書かれたもので、宅地を大工清蔵に金6両2歩(約675,000円)で売却した証文	当館
40	二代歌川広重画《諸国六十八景/越中青城山》	文久2年(1862)初版	1	23.6×17.5	二代歌川広重の『諸国六十八景』シリーズの1枚で、前景に氷見の阿尾(「青」は誤記)城を背景に守山城を描く。二代歌川広重(1826～69)は浮世絵師。師の画風を忠実に継承した風景画などをはじめ、外国輸出用の茶箱のラベル絵なども描いた	当館

41	淵上旭江画『北陸奇勝』	寛政12年(1800)刊	1	22.4×15.8	「越中青城山」は二代広重のそれ(1862年)と同じ構図であり、広重が参考にしたことがわかる。備中(岡山県)の画家・淵上旭江(1753～1816)の『日本勝地 山水奇観』8巻のうち、若狭から越後まで全25図が収録。賛の漢詩は美濃(岐阜県)の女流漢詩人で画家の江馬細香(1787～1861)	当館
42	淵上旭江画『北陸奇勝』より越中の景勝地(複写)	—	4	—	「越中阿尾村」、「越中伏木窟」、「越中富志貴浦」、「越中船橋」	当館
43	正村陶所筆《羅漢図》	明治～昭和期	1	132.9×33.4	高岡出身の日本画家・正村陶所(1886～1954)が描いた羅漢図。5人の羅漢(仏道修行者)の内、半託迦尊者は香炉の煙から龍を現出させており、跋陀羅尊者は虎を従えている	当館
44	筏井竹の門筆《小督の塚》	大正8年(1919)頃	1	34.7×31.6	『平家物語』や謡曲などで知られる悲劇のヒロイン・小督局の塚を描いたもの。宝篋印塔か灯籠のような姿(現在は小さな五輪塔)で描かれ、ゆかりの桜の木に囲まれている。塚は現在、京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町にある	当館
45	筏井嘉一和歌書	昭和後期	1	129.8×33.0	高岡市出身の歌人・筏井嘉一の和歌書。「兼信先生古稀祝賀」と題され「戦禍にて危ふかりにしみいのち(御命)を なか(長)らへませし 今日よろこひ」。嘉一(1899～1971)の父は俳人・俳画家などとして活躍した竹の門	当館
46	東林雪象書《一行書》	江戸後期	1	128.1×28.8	江戸後期の高岡を代表する漢詩人の一人・東林雪象の一行書。中国唐代の僧・善導『般舟讚』の一節。東林(1786～1841)は江戸時代の僧・漢詩人。高岡市石堤の長光寺17世。漢詩壇の中心として活躍し、後に上京、本願寺の御使僧として全国に遊ぶ	当館
47	島田孝之書《五律》(本林篤追悼)	明治32年(1899)	1	136.0×34.0	現高岡市中田出身の政治家・島田孝之(1850～1907)が本林篤(1857～98)の死を悼んだ五言律詩(五律)の書。本林は、旧作道村(現射水市)初代村長で、立憲改進黨の島田らとともに自由民権運動で活躍した	当館
48	木村天紅作《縄目菱文乾漆壺》	昭和12～25年(1937～50)頃	1	径18.1×高28.9	現高岡市新横町出身の漆芸家・木村天紅作の乾漆壺。乾漆の特徴である麻布が木地全体を覆うように張られる。天紅(1887～1950)は、高岡漆器に朝鮮螺鈿の技法を移入した漆芸家。螺鈿には鮑の中厚貝を用い、文様の糸鋸切り、割貝技法など高岡漆器に新技法を紹介した	当館
49	大井見太郎作《孔雀鳩文研出蒔絵文庫》	昭和～平成期	1	縦33.4×横25.8×高12.2	黒漆の蓋の表面に、2羽の横向きの孔雀鳩を配し、蒔絵、梨子地蒔絵、螺鈿の技法により華やかさを表現している。大井見太郎(1913～2001)は現・高岡市下関町出身の漆芸家	当館
50	山崎立山作《高岡御車山文蒔絵パネル》	昭和30～44年(1955～69)頃	1	36.8×29.4	高岡で毎年5月1日に行われる高岡御車山祭の山車の車輪部分を蒔絵で表したパネル。山崎立山(1895～69)は高岡市定塚町出身の漆芸家	当館
51	合田実作《立山文卵殻貼りパネル》	昭和期	1	31.4×40.6	金雲たなびく朱の空を背景に、卵殻を使用して立山の白い山並みを表現したパネル。合田実(1933～83)は高岡市大坪町出身の漆芸家。父・平吉と山崎立山に師事した	当館

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。複数資料の寸法は割愛しました。

計51件104点